

岩手教区報

第392号
 立教188年8月1日
 天理教岩手教務支庁
 盛岡市馬場町3-40
 TEL 019-622-7962
 FAX 019-623-9597

5月24日から27日にかけて、「岩手教区おぢばがえり」が実施されました。これは、おぢばを賑やかにとのお打ち出しを受けての団参でした。一つの宿舎に教区として宿泊するバス団参という形態は、一昨年6月に実施して以来のことでした。バス乗車時間は最長で片道17時間に及ぶ旅でしたが、参加された方には、皆さん和気あいあいと楽しんでのおぢばがえりとなりました。

バスの中で、行きは自己紹介を全員にして頂きました。これによって、教区団体としての一体感が生まれ、たよりに思います。他支部、他系統の方でも、同じ岩手の地で道を歩む仲間という雰囲気、おぢばに近くほどに醸成されていきました。

おぢばでの諸行事もスムーズに進み、勇んでつとめられました。26日の高井久太郎先生の記念講演は、私にとって驚きの一つでした。高井先生の亡きご両親は存じ上げており、私自身はおぢばでの学生時代からよくお世話になりました。高井猶久先生は、二代真柱様の御命により御夫婦でアフリカのコンゴに派遣されます。昭和39年布教の道中、最初に懐妊された双子



「岩手教区おぢばがえり」を振り返る

主事・奥州支部長 崎山道範



の赤ちゃんが母体の身上から早期に取り出され、医者からも見放された状態を、ただひたすらに親神様にすがって決死のおたすけ、無我夢中の布教の道を駆け抜けて、母子ともに命の御守護を頂かれたことのお話は、当事者の久太郎先生から初めて聞かせて頂きました。私にとっては、猶久先生の思い出も回想されてきて、とても心に染み入るお話でした。

帰りの車中、今度は本団体の感想をやはり全員に述べて頂きました。お一人おひとりが感じられたことを披露され、今回の団体で得たものを年祭活動に生かそうとの意気込みも語られたのでした。

さて、真柱様は年頭あいさつで「一手一つ」の大切さをお話し下さいました。今回の団体に参加された方もできなかった方も、皆それぞれに置かれている立場や環境が違います。それに伴い、つとめる手段、方法も違ってくるでしょう。しかし、同じ方向を向いて、精一杯動いたという点で皆が揃っていれば、教祖には「一手一つ」と受け取って頂けるのではないのでしょうか。年祭活動の残りを喜びの種まきに励み、岩手教区の一員として精一杯動き切りたいと思います。



「天理図書館での出会い」

おぢばがえりの度ごとに、天理大学附属図書館を訪れています。長年の研究生活において、天理教の教理である「元の理」と自身の専門である物理学との繋がりを感ずることが多かったのですが、先人がなぜ「元の理」に魅了されたのか、そして、どのように挑んだのかを知りたかったからです。

天理図書館は、「日本書紀」などの国宝や重要文化財、江戸期の文学などで世界的に有名。教理についても、広く出版された本だけでなく、自費出版、教区や支部の研修会のテキスト、先人によって語り継がれてきた資料など、ここでしか読むことができない資料が沢山あります。分けても、多くの自費出版の書籍があり、それらには、『自分の「元の理」を書きたい、残したい』という著者の強い思い

いが感じられ、私も大いに触発されたものです。医学や生命科学から教理を説く本は多いのですが、素粒子物理学と絡めて「元の理」を考察した本なども発見しました。

そのような中、昨年5月に「パウリⅡ ユング 往復書簡集」という本に出会いました。ユングは高名な心理学者、パウリは量子力学の創成期に活躍した理論物理学者。この奇妙な取り合わせに、思わず引き込まれてしまいました。パウリには、彼が近づくことと実験装置が壊れるなどの不思議な逸話が残っています。ある時、理由もなしに実験装置が壊れた研究所があり、後で調べたら、同時にパウリが近くを車で通過していたとか。ユングも自らを操り易の占いをしたり、共時性という概念を通して、テレパシーや予知夢などの超自然現象に関心を示すなど、その考えと行いは神秘主義とも受け取られています。



水彩画・西園和泉

行事予定 【8月分】

- 9日 婦人会例会 (9時30分)
- 11日 学生担当委員会例会 (19時)
- 23日 女子青年例会 (10時)
- 17日 夏の勉強会 (9時~12時)
- 17日 災害隊教区研修会 (11時)
- 30日 青年会例会 (20時)
- 31日 教区献血ひのきしん (9時)

この本では、共鳴や相互作用など物理学と心理学に共通に出てくる用語や、超心理現象などの事象を物理学でどのように捉えるかなど、26年にわたり意見が交換されています。

すべての出会いには必ず意味がある。日本のユング心理学をリードされた河合隼雄先生は天理大学で長年教鞭を執られたので、この書物との出会いは偶然ではなかったのかも知れません。しかし、これが契機となって、ユングとパウリと元の理と物理学が私の中でグルグルし、教理の理解は少し深まったように思います。今年1925年に量子力学が生まれて丁度百年。新たな出会いと視座から「元の理」に挑戦するよう、教祖から背中を押されている心地です。



青年会

「東北ブロック大会in岩手」報告

教区青年会は、去る6月28日(土)、洋野町にぎわい創造交流施設「ヒロノット」を会場に、「青年会東北ブロック大会in岩手」を開催し、東北6教区から女子青年10人を含む56人が参加した。

午後2時に開会。はじめに権谷正一教区主事が会場教区を代表して挨拶に立ち、続いて村松義朗教区青年会委員長が歓迎の言葉を述べた。

青年会本部地域活動部委員・日下部一宗委員の講話では、青年会の基本方針「心を澄ます毎日を一ほこりを減らし、誠を増やす」について、自身の体験をもとにお話し下された。その後講話を受けて、3人1組になって「対話」を行い、互いに気づきを得て、自身の信仰を深めた。

その後、午後6時から、屋外にて夕食を兼ねた交流会を行い、参加者は笑顔溢れる楽しいひと時を過ごした。翌29日は8時からラジオ体操を行い、日下部委員より10月25日に開催される、「天理教青年会総会」についてお話があり、朝食を配布して解散となった。

今回、岩手教区が会場教区となり、東北6県の多くの若人が集い、自身の信仰と互いの親交を深めた有意義な大会となり、理ましたが、開催に当たって、多大なご支援を頂いた関係諸氏にあらためて御礼申し上げます。

なお、岩手教区の参加者は次の通り。青年会員16人、女子青年6人、婦人会員1人、少年会員6人、OB4人、計33人。



記

「献血ひのきしん」【8月31日】

教区献血たすけあいの会は、8月31日(日)、教務支庁を会場に「献血ひのきしん」を実施します。1人でも多くの方に、ご協力頂きますようご案内いたします。また、献血されない方にも楽しんで頂けるよう、種々企画を用意しております。この機会にぜひご来庁ください。



献血推進委員会

日時 8月31日(日) 9時～13時30分
会場 教務支庁

◇献血受付 9時～12時

◇防災セミナー 10時～11時

◇バザー 11時～12時30分

◇出張販売・レジュイール「パン」

・紫波酒造「清酒」「甘酒」

・冷麺

◇昼食・冷やしうどん(無料)

※防災セミナーでは、日本赤十字社岩手県支部から講師が来庁し、避難所用テント、段ボールベット等の設置体験があります。



布教部

「布教推進講習会」報告



山本達則先生

教区布教部は、去る7月13日(日)、教務支庁を会場に「布教推進講習会」を開催、31人が参加した。

講師の山本達則

先生(布教の家大阪寮寮長・大参分教会長)は、「布教に出てすぐに結果が出ることはほとんどないが、長い時間をかけて人が救かっていく姿を見せて頂く喜びほど大きいものはない。信仰はおつとめやひのきしんだけでなく、布教に力を入れることで親神様教祖のお働きを身を感じる事ができ、全てが充実してくる。神様に必要と思われるようぼくとして、一層布教に励み、年祭活動を勤めきろう」と話された。

午後は暑さも厭わず3つの班に分かれて神名流しを行い、その後



の質疑応答では教会家族のあり方、現代事情の捉え方、SNSの活用と注意点など、日頃の悩みや疑問などについてお話し頂いた。

「時いたる種は皆生えよとの仰せの通り、必ず自分にとってプラスになって返ってくる」との山本先生のお言葉そのままに、参加者は勇み心いっぱいになったところで、午後2時30分解散となった。



道の教職員の集い

「夏の勉強会」【8月11日・12日】

道の教職員の集いは、来る8月11日、12日の両日、教務支庁を会場に、「第43回夏の勉強会」を開催します。

対象は小学生と中学生です。夏休みの宿題をはじめ、1学期までの基礎学力の向上も望めます。参加者との仲間作りもできる楽しい行事です。詳細はチラシをご覧ください。

日時 8月11日(月) 9時受付
8月12日(火) 14時解散
会場 教務支庁



災救隊

「教区研修会」【8月17日】

災救隊岩手教区隊は、8月17日(日)、教務支庁において「教区研修会」を開催します。教区班、支部班長の方は是非ご参加下さい。

記

日時 8月17日(日)

午前11時～午後3時

会場 教務支庁
内容 災救隊基本方針と今年度の活動について、教区役割分担について、資機材・物品の整理、他。

服装 隊服